

## 令和4年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	6	学校名	熱海高等学校	校長名	鈴木 康之
------	---	-----	--------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
	日々の生徒との関わりを大切にして、個に応じた「温かく」かつ「丁寧」な指導を充実させ、欠席、遅刻、早退の減少を図り、中途退学者数の減少につなげる。	1日の欠席9人・遅刻2人・早退0.5人未満	退学者数9人 転学者数3人 1日の欠席10.7人・遅刻5.7人・早退0.9人	C	昨年度退学者12人、転学者3人、1日の欠席10.9人・遅刻4.2人・早退0.9人と比べると若干減少した。しかし、出停3.5人を欠席人数に加算すると1日あたり約15人となり、全校生徒の約10%を占める。今後家庭との連携を強化し、きめ細かい指導体制の確立を図る。
ア	教職員間で生徒指導に対する基準の意思統一を図り、ぶれることのない一貫した指導を行い、規範意識を身につけさせる。	昇降口・伊豆多賀駅にて声掛け指導を毎日実施 チケット年間枚数250以下 生徒指導件数年15件以下 (いじめ指導0件)	昇降口・伊豆多賀駅での声掛け指導は毎日実施した。 チケット枚数生徒指導件数12件21人 いじめ指導0件	A	昇降口・伊豆多賀駅での声掛け指導を毎日欠かさず行ったことで、生徒の身なりや挨拶への意識は目に見えて変化した。チケット枚数は目標を上回ったが、多くの教員が丁寧に指導した結果とも捉えられる。生徒は落ち着いて生活できている。押さえる指導から伸ばす指導への転換期にしたい。
イ	知的好奇心を喚起するような魅力ある授業を実践し、育成すべき「資質・能力の三つの柱」の向上を図る。丁寧で分かりやすい授業、家庭学習の習慣化を推進し、基礎学力を定着させる。	教員の公開授業参加率100% 公開研究授業年2回実施	公開授業の参加率100%を達成、公開研究授業年2回実施	A	年2回の公開研究授業では、全ての教員が教科及び教科外の授業を参観し、日々の授業改善に努めることができた。
		授業評価「授業が分かる生徒」75%以上	授業が分かる生徒が76.43%であった	A	授業をよく理解できる15.92%、だいたい理解できる60.51%、あまり理解できない17.20%、全く理解できない1.91%。授業が分からない23.57%生徒に対するサポート体制を強化する。
		「研修通信」月1回以上発行	年間6回(月0.5回)の発行であった	A	担当者を変えながら、様々な視点や内容で、教員の自己啓発や業務改善の一助となった。
		生徒の家庭学習時間30分以上60%	30分以上の家庭学習時間者数34.9%	C	昨年度26.73%に比べると改善傾向がみられる。進路実現に向け、家庭学習への意識づけが必要である。

様式第3号

ウ	進路シラバスに従い、計画的に生徒のキャリア形成のための進路指導を実施する中で、その成果を検証し、よりよいものに改善していく。地元企業や大学、専門学校等との連携により進路行事を充実させ、進学先、就職先の開拓につなげる。	通信の発行 月1回以上	通信の発行 月1回以上	A	月1回以上発行することができた。キャリア行事や、進路への意識付けについての文章を載せることができた。
	将来の可能性を広げるために、意欲を喚起し、より高い進路希望を掲げて地道に努力する生徒を育て、その実現に向けての実力を養成する。	保育・介護体験実習及び類型実習の参加率100%、インターンシップ・オープンキャンパスの参加率100%	保育・介護体験100% インターンシップ73% オープンキャンパス60%	B	保育・介護体験実習は、感染症予防のため、昨年に引き続き講話形式で1・2年生全員に実施。コロナ禍で、オンライン型で参加可能なオープンキャンパスもあったものの、実際に参加しない生徒もいた。
		第一志望進路先への合格・内定85%	第一志望進路先への合格・内定率98.3%達成	A	就職希望者は第一志望100%内定率達成した。進学希望者は96%達成した。早い段階からの教員との個別の面接練習が効果的だった。進学、就職ともに、自分に合った進路先を選ぶことができた。
エ	生徒が主体的に取り組む場面を意図的に創出し、達成感、自己肯定感を育む。部活動や生徒会活動へ意欲を持って参加する生徒の割合を増やし、学校の活性化につなげる。	学校行事に対する生徒満足度80%以上	桃陵祭満足度100%	A	生徒の満足度は非常に高く、有志団体により生徒会以外の生徒が表に立てる機会が増えた。また、今年度は入場制限を設けて一般公開を行ったが円滑に進行することができた。しかし、企画書や出展団体数の見直しを検討する必要がある。
		2、3年生の部活動加入率70% 部活動満足度80%以上	加入率82% 満足度82%	B	加入率、満足度ともに目標を上回った。今後、1年生が進級する際に退部することが予想される。そのため、部活動の魅力を全面的に押し出すことで退部者を減少させたい。
オ	HR、学年集会、全体集会など、教育活動の様々な場面で、道徳的価値を高める指導をし、集団生活において自他を尊重する態度を養う。	各学期1回以上実施	全体指導から個別指導まで細やかに指導した。特に全校に対して道徳心に働きかける指導を行うことができた。	A	集会での話や生徒指導通信などの配布物を利用し、生徒の心の成長を促す指導を心掛けた。「いいやつでいよう。それが周囲に伝わるように生活しよう。」を合言葉に学校全体で前向きな指導を行うことができた。
		SST実施回数 1年毎週1回 2、3年毎月1回 学年単位で実	1年は2回(4月初期指導・総合探究12月)	B	2、3年生の総合探究でのSSTは時間がとれず実施できなかった。1年4月に人間関係づくりのSSTを集中的に行うのが妥当と思われる。 学校生活アンケートで、人間関

様式第3号

		施 学校生活アンケートいじめ 嫌がらせ項目 0件	学校生活アンケート結果に おける、いじめ 0件		係がうまくいっていない数人の 生徒について、担任が関係生徒 たちへ聞き取りを行い、いじめ と判断されるものはなかった。
カ	読書環境を整備し、 読書習慣を定着させ、読書量の増大及 び質の改善を目指す。	授業における 図書室利用数 年20回以上	利用回数は10 回程度であつた。	C	各教室の環境の充実に伴い、図 書室の利用回数が減っているよ うである。自習での活用の提案 を、次年度以降の課題としたい。
		朝読書平常授 業日毎日実施	ほぼ毎日実施 した。	A	朝読書の在り方について改めて 整理したが、今後も検討が必要 な状態である。
キ	生徒が心身ともに安 心して快適に過ごせ るよう、生徒・保護 者の健康管理に対す る意識を向上させ、 安心・安全な教育環 境を整備する。	保健だより 月1回発行	月一回の発行 ができた。	A	例年の内容にプラスして、日本 スポーツ振興センター災害共済 給付金の制度について生徒へ周 知した。
		朝食摂取率 80%以上	76.9%であつた。	B	生徒へ食事の大切さは熱海市の 食育担当と協議して伝えること ができた。また、お弁当や軽食 の自動販売機の導入を検討して いる。
	特別支援教育に対す る教員の資質・能力 を向上させ、生徒 個々の状況や教育的 ニーズに適切に対応 する。	心理アドバイ ザーの相談日 月1回	毎月1回心理 アドバイザー による相談日 を設定・実施 した。	B	毎月1回心理アドバイザーが話 を聴いてくれることで担任も悩 みをもつ生徒の状況がつかめ有 効であつた。不登校の生徒へも 毎回面談の声掛けを試みたが、 直接面談まではいかなかった。 東部特別支援の先生を招いて自 閉症傾向のある生徒についての 研修を実施し、この様な生徒に 対する理解を深めることができ た。毎年新任教員に本校に多い 自閉症傾向の生徒の特徴につい て研修を行う機会があると良い。
ク	生徒の危険への予 測・対応力を育成す るとともに、奉仕活 動等を通じて地域貢 献意欲を高める。	奉仕活動 年2回以上	部活動有志に よる通学路や 近隣の地域清 掃を実施し た。	B	天候の影響で、ウルトラ大掃除 を実施することはできなかった が、部活動有志による通学路清 掃や近隣地域の清掃は行うこと ができ、生徒の積極的な意識向 上はうかがえる。
		防災訓練参加 率50%以上	防災訓練参加 率7.2%	C	新型コロナウイルスの影響で、 訓練を行わない地域が多かった ため参加率は低かったが、緊急 地震速報の受信や地域の避難場 所を調べさせることにより防災 意識の向上を図れた。

ケ	<p>広報活動を充実させ、生徒・保護者・地域に対し、学校の特徴的な取り組みや成果についての理解を広め、生徒募集の増加につなげる。</p> <p>地域との連携を深め、地域に根ざした教育を実践することにより、地域から信頼される学校づくりにつなげる。</p>	<p>中学校訪問2か月に1回 「学校新聞」年6回発行 ホームページ週1回更新</p>	<p>中学校訪問を年5回、 報道部による「学校新聞」年6回発行 ホームページを週1回以上更新 インスタグラムを新規開設し、週平均2回以上更新</p>	A	<p>新入生に関する聞き取り、近況報告を兼ねて中学校を訪問し、手厚い指導体制を訴えた。新入生が母校を直接訪問して広報する方法も効果的と思われる。管理職が中学校へ赴き、中学生対象の説明会を複数回実施。校長による中学校訪問に加え、運営委員による中学校訪問を新規に追加することで学校PRを行い、新入生獲得に力を注いだ。報道部が、入学式・文化祭等の行事ごとに「学校新聞」を発行した。</p> <p>学校行事や講演会、部活動での活躍を週平均1回以上ホームページで紹介している。</p> <p>インスタグラムを新規に開設し、週平均2回以上のペースで学校情報を発信している。</p>
		<p>オープンスクール参加者数30人以上、一日体験入学者参加人数120人以上</p>	<p>オープンスクール参加者合計38人 一日体験入学133人参加</p>	A	<p>他校に比べ体験入学を早期に実施しているため、目標を達成できた。オープンスクールも目標を達成できたが、第2回の参加者数を増加させるためにも公開授業内容や視点を再検討する。</p>
		<p>P T A 役員会の参加率50%以上</p>	<p>P T A 役員会の参加率67.9%</p>	B	<p>役員会の参加率は目標を達成することができたが、昨年よりは低かった。また委員会の参加率は非常に低く参加率を高めていきたい。</p>
コ	<p>外郭団体等と連携し、生徒が国際感覚を身につける場を提供し、積極的な交流により多様な文化への理解を深めさせる。</p>	<p>異文化交流に係る行事等の実施1回以上</p>	<p>ビジネス観光類型の授業において2回の異文化交流を実施</p>	A	<p>コロナ禍であるが、日本に在留している県内の留学生において熱海市内の魅力を発信するためのモニターツアーの企画及びアテンドを実施した。次年度以降、コロナ禍が落ち着き熱海市国際交流協会を通じて異文化交流を一層深めたい。</p>
サ	<p>生徒や職員が安心して過ごせる教育環境を整える。</p>	<p>施設設備の巡回点検月1回 施設設備に係る生徒事故0件</p>	<p>施設設備の巡回点検月1回 施設設備に係る生徒事故0件</p>	B	<p>定期的な点検や職員からの情報提供等で発覚した改善が必要な箇所について、修繕等の対策を実施、生徒の事故はなかった。今後は、施設設備の老朽化等に伴う中規模修繕が必要な箇所の予算確保が課題。</p>

様式第3号

シ	<p>教職員の組織・業務や教育活動の見直し、時間外勤務の削減を通し、生徒に対して効果的な教育活動を行う環境を整備する。</p>	<p>時間外勤務の平均45時間以内 業務改善をした教職員の割合100% 意識付けのための情報提供 年間10回以上</p>	<p>時間外勤務の月平均46.7時間 業務改善100% 情報提供 年間10回以上</p>	B	<p>時間外勤務時間は休日の部活動指導等が主な要因である。働き方改革の観点も含めて、学期ごとの行事精選を職員全体で行った。意識づけの情報提供は、職員会議を含め随時行っているが、時間外勤務時間が多い教職員へは引き続き声掛け等を行っていく。</p>
---	---	--	--	---	--